

平成30年度在宅療養講演会実施報告

地域医療課

実施概要(1)

実施日	地区名	実施場所	講演タイトルおよび講師・パネリスト
第1回 (6月17日)	光が丘	光が丘 区民センター	「家族ががんになったとき～在宅での過ごし方～」 祐ホームクリニック平和台 医師 林 伸宇 氏 ハミングバード訪看ステーション 宇田川 聡子 氏 練馬区北町地域包括支援センター 安井 晴代 氏
第2回 (7月21日)	練馬	Coconeri 研修室	「在宅医療ってなんだろう～住み慣れた家での療養をかなえるために～」 浩生会スズキ病院 医師 鈴木 小百合 氏 第2育秀苑地域包括支援センター 若子 寛子 氏
第3回 (10月28日)	石神井	石神井庁舎 5F 会議室	「独り暮らしで在宅医療を選択すること～ここまでできる在宅医療の現実～」 ホームクリニックのどか 医師 豊島 究 氏 練馬ゆめの木地域包括支援センター 高山 美幸 氏
第4回 (11月18日)	大泉	勤労福祉会館	「私の最期を生きる～ACPと幸せ度～」 大泉生協病院 医師 齋藤 文洋 氏 やすらぎミラージュ地域包括支援センター 新山 由利子 氏

実施概要(2)

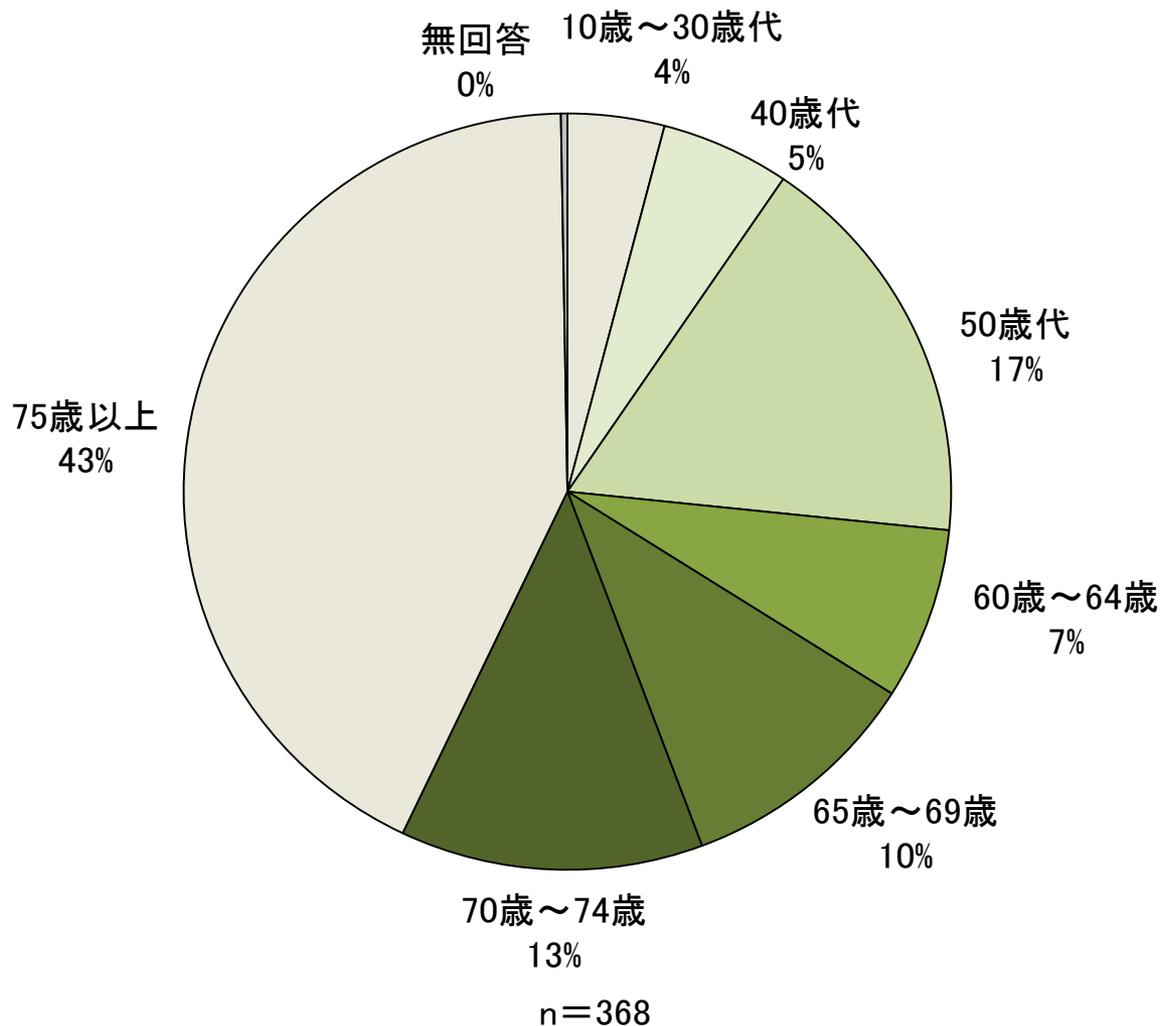
- 参加者数は大泉地区が150人を超え、他の地区では80~100名前後であった。
- 参加率は地区によって差があり、最も多かったのは光が丘地区105.4%、最も少なかったのは石神井地区73.6%であった。

	地区名	事前 申込者数	参加者数	参加率	アンケート 回答者数	アンケート 回収率
第1回 (6月17日)	光が丘	93名	98名	105.4%	89名	90.8%
第2回 (7月21日)	練馬	93名	84名	90.3%	81名	96.4%
第3回 (10月28日)	石神井	110名	81名	73.6%	72名	88.9%
第4回 (11月18日)	大泉	170名	150名	88.2%	126名	84.0%
合計	—	466名	413名	88.6%	368名	89.1%

参加者アンケート(1)ー全体

あなたの年齢にあてはまる年代をお選びください。

- 75歳以上の参加者が最も多かった(43%)。
- 60歳以上の参加者を合計した割合は77%だった。



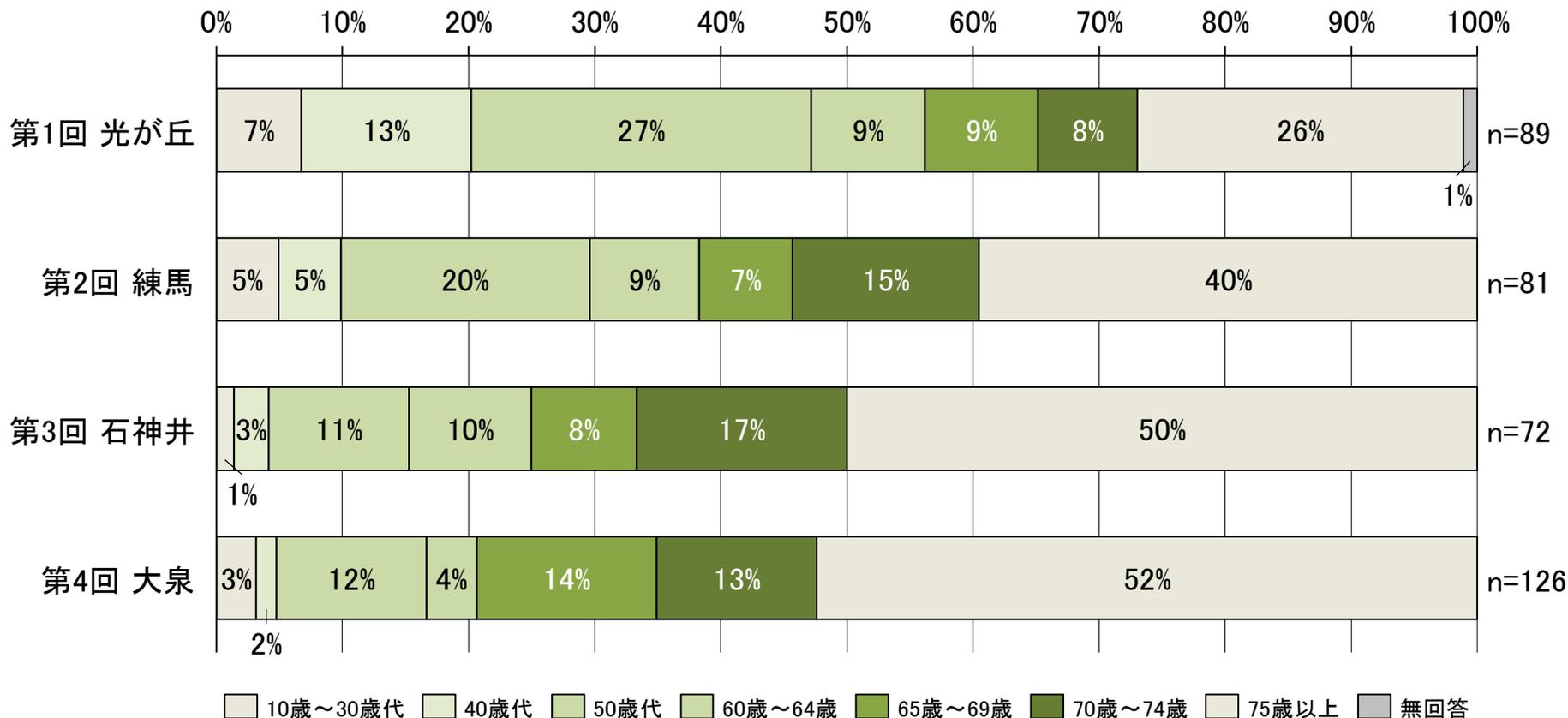
参加者アンケート(1)ー各回別

あなたの年齢にあてはまる年代をお選びください。

- 練馬地区、石神井地区、大泉地区では「75歳以上」の参加者が最も多かった。
- 一方、光が丘地区では「50歳代」の参加者が最も多い結果となった。

参考:各回タイトル

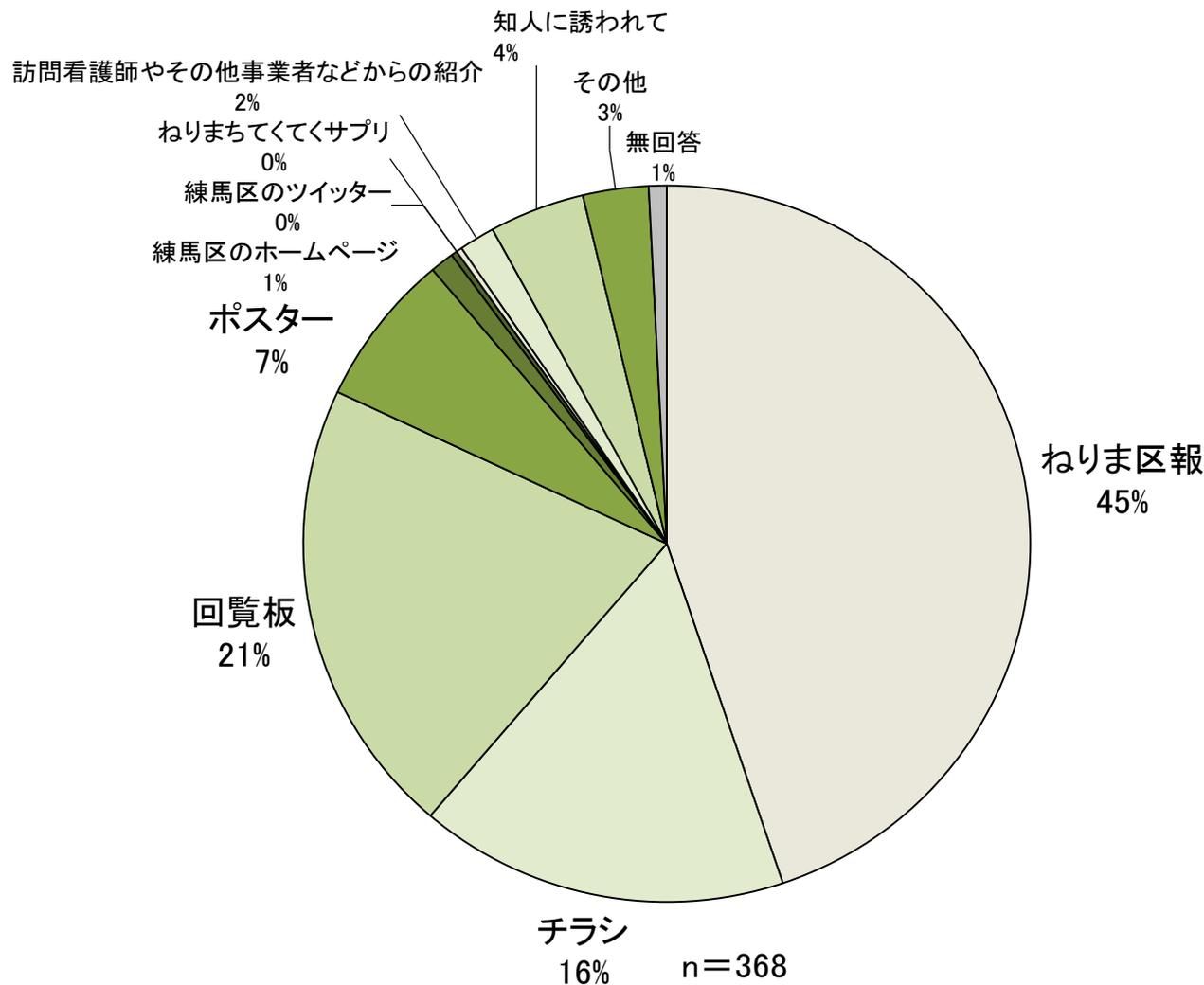
第1回 光が丘	家族ががんになったとき～在宅での過ごし方～
第2回 練馬	在宅医療ってなんだろう～住み慣れた家での療養をかなえるために～
第3回 石神井	ひとり暮らしで在宅医療を選択するということ～ここまでできる在宅医療の現実～
第4回 大泉	私の最期を生きる～ACPと幸せ度～



参加者アンケート(2)ー全体

本日の講演会はどこでお知りになりましたか？

- 「ねりま区報」で講演会を知った人が最も多かった(45%)。次いで回覧板(21%)、チラシ(16%)、ポスター(7%)であり、紙媒体での認知が約9割となった。

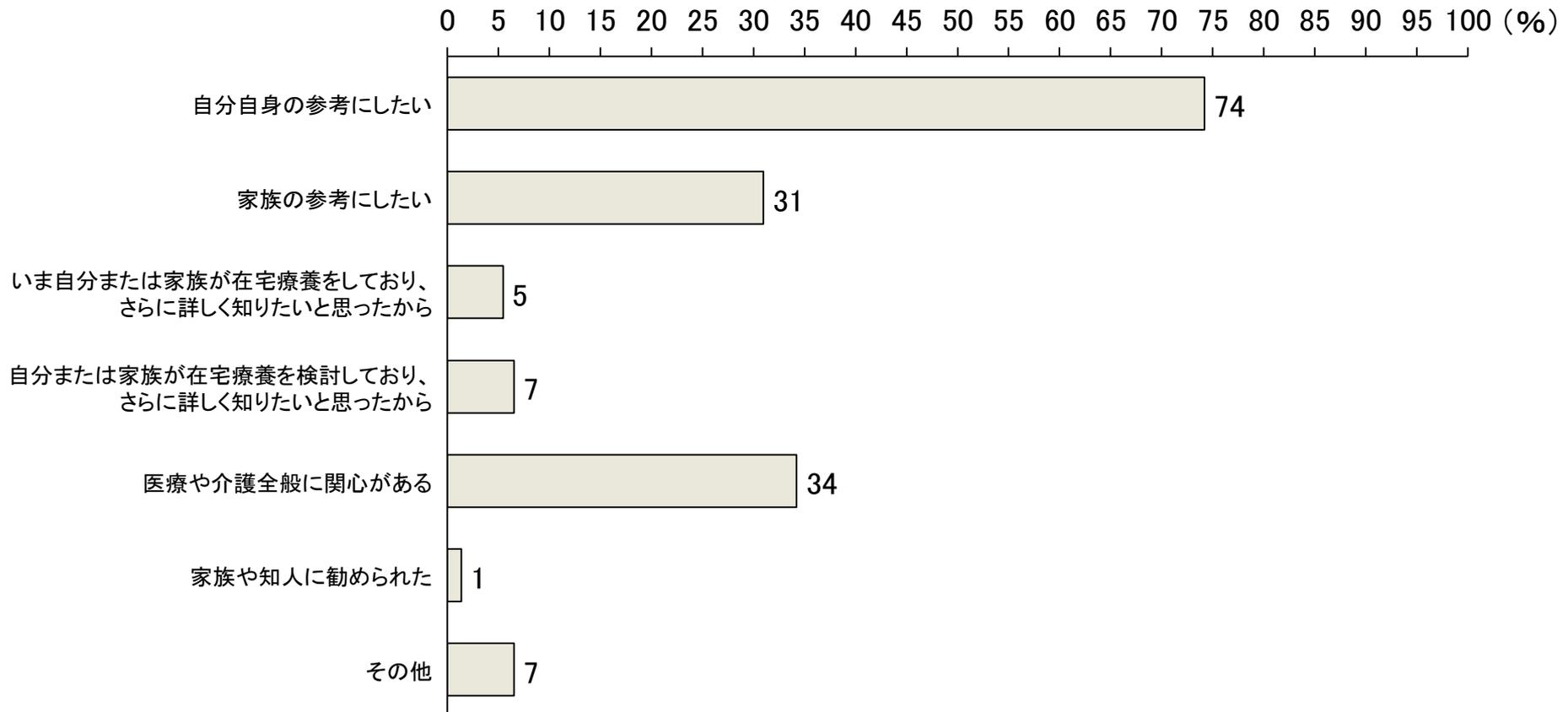


参加者アンケート(3)ー全体

本日の講演会に参加しようと思った理由をお聞かせください。

- 「自分自身の参考にしたい」という人が最も多かった(74%)。
- 次いで「医療や介護全般に関心がある」が34%、「家族の参考にしたい」が31%だった。

※複数回答可



参加者アンケート(3)ーその他の記載内容(一部抜粋)

本日の講演会に参加しようと思った理由をお聞かせください。

【業務・ボランティア内容の研鑽のため】

- ・ 町会として介入できる範囲、具体策などがあるか否かを確認したいと考え、参加した。(練馬・石神井)
- ・ 仕事で参考にしたかった。(光が丘・練馬)
- ・ ボランティアをしているのでその参考としたかった(石神井)
- ・ 地域への安心を提供したいために知っておきたい(練馬)
- ・ 業務に活かしたい(石神井・大泉)
- ・ 医療講座開催を考えているため(大泉)

【在宅療養への関心】

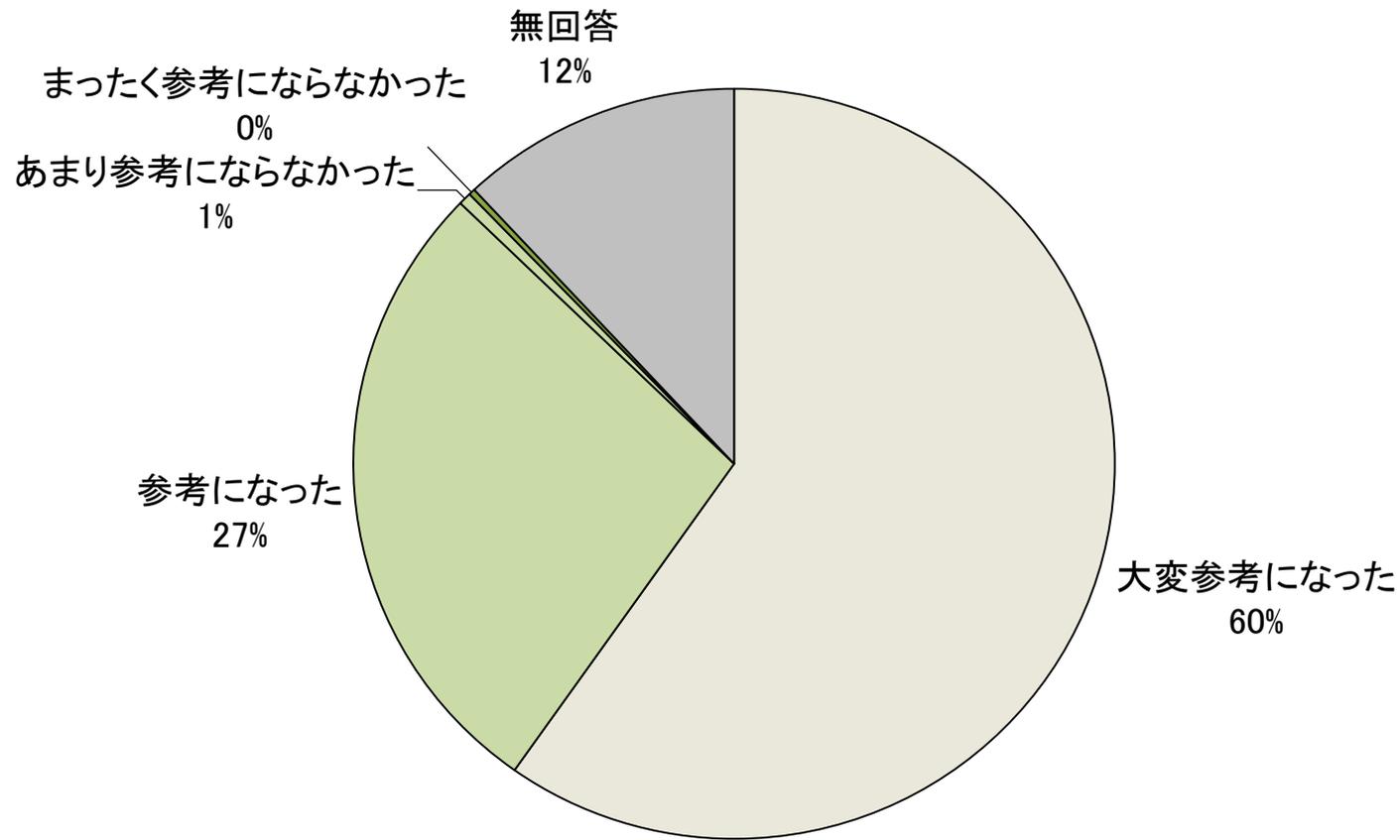
- ・ 在宅医療に関心がある。(光が丘)
- ・ 在宅医療を以前から考えの中に入れてあった為(光が丘)。
- ・ 今後の参考のため。(練馬)
- ・ 現在は要支援2ですが、これから次を考えておく為(石神井)

【その他】

- ・ 同居の母の最期を看取っていただいた講師にお会いしたいと思った。(光が丘)
- ・ 講師の話をもっと聞きたかったから。(光が丘)
- ・ 一人暮らしであり、子供たちが遠いので。(石神井)
- ・ 母の介護(特養入所→入院→死亡)が良かったのかずっと気になっている。(光が丘)
- ・ 家族が最近がんで亡くなった。緩和ケア病院で亡くなったが、それでよかったのか知りたいので参加した。(光が丘)
- ・ 友人から救いの手を求められている(石神井)

参加者アンケート(4)ー全体 講演会の内容はいかがでしたか？

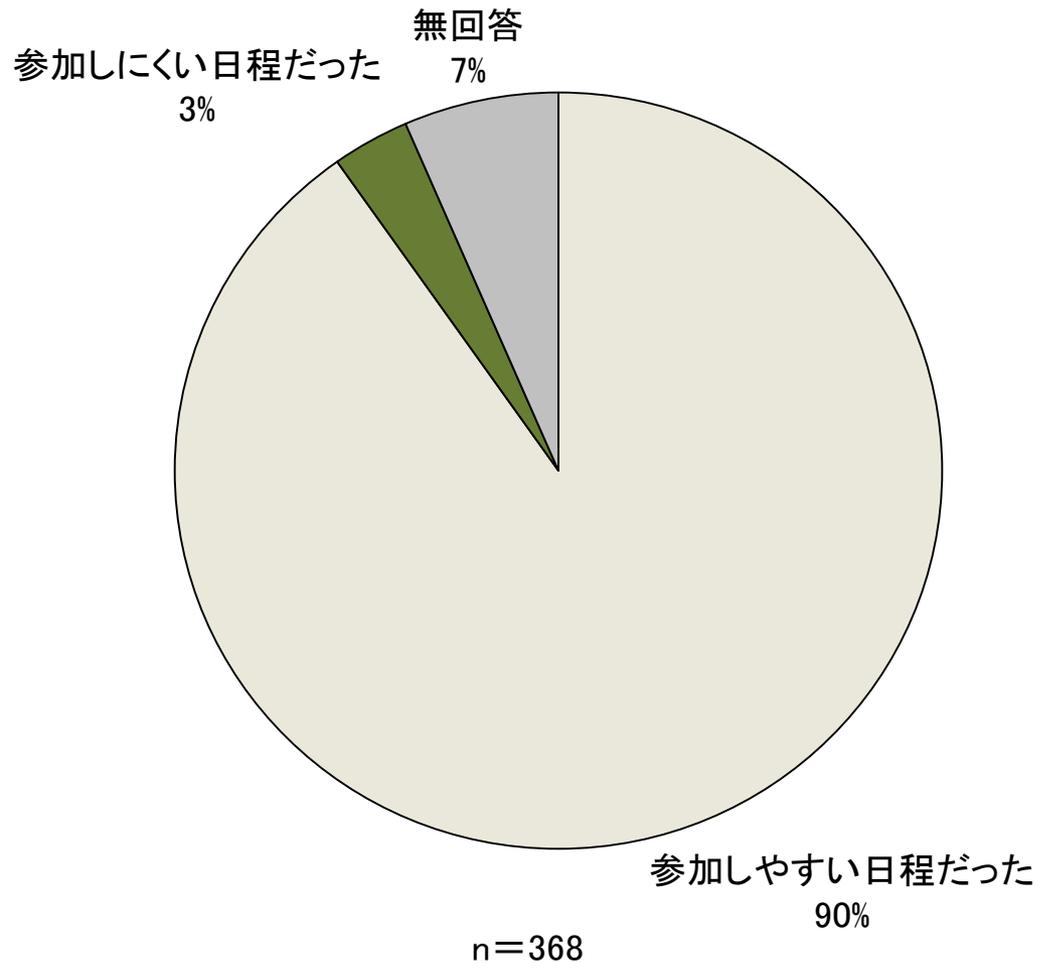
- 「大変参考になった」「ある程度参考になった」を合わせると9割近い結果となった。



n=368

参加者アンケート(5-1)ー全体 講演会の開催時間帯についてはいかがでしたか？

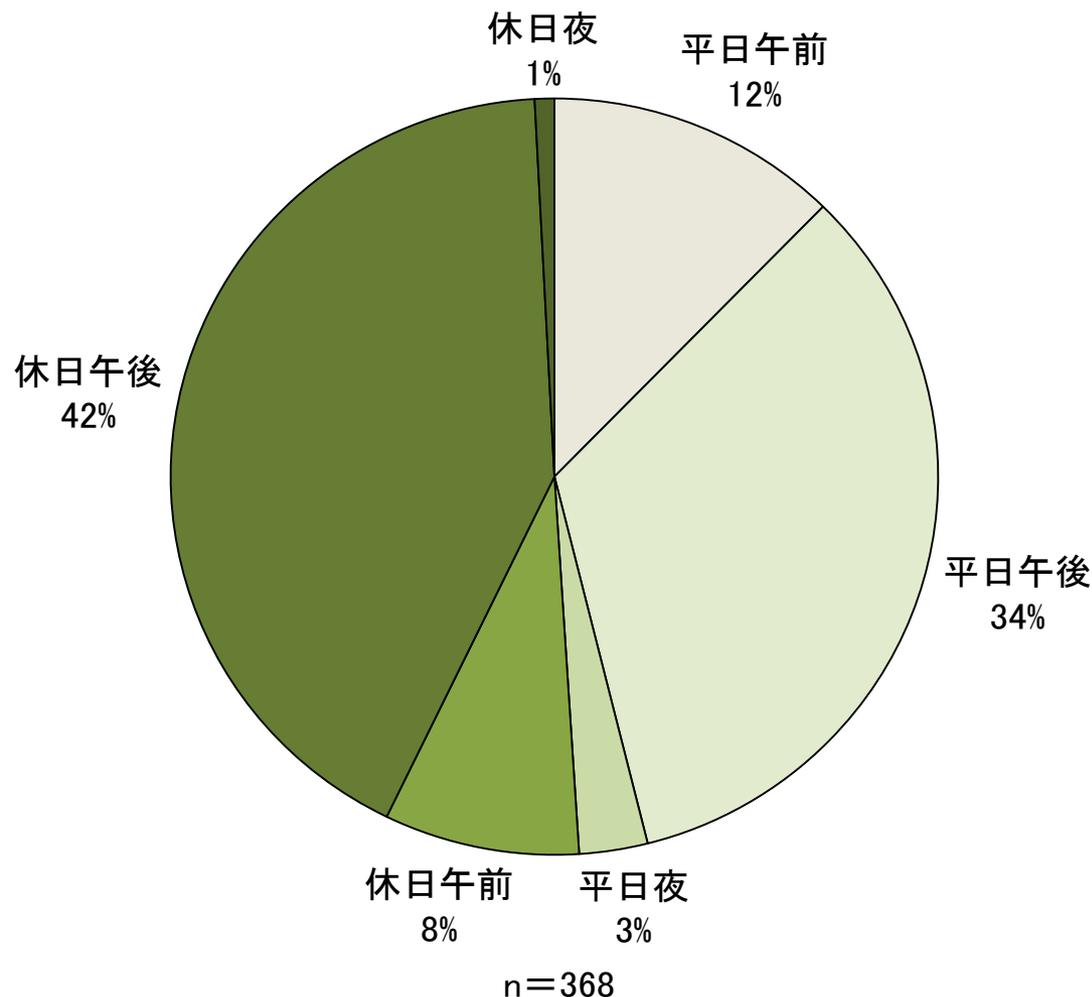
- 「参加しやすい日程だった」の回答は90%だった。



参加者アンケート(5-2)ー全体

最も参加しやすいと思われる開催時間帯をお答えください。

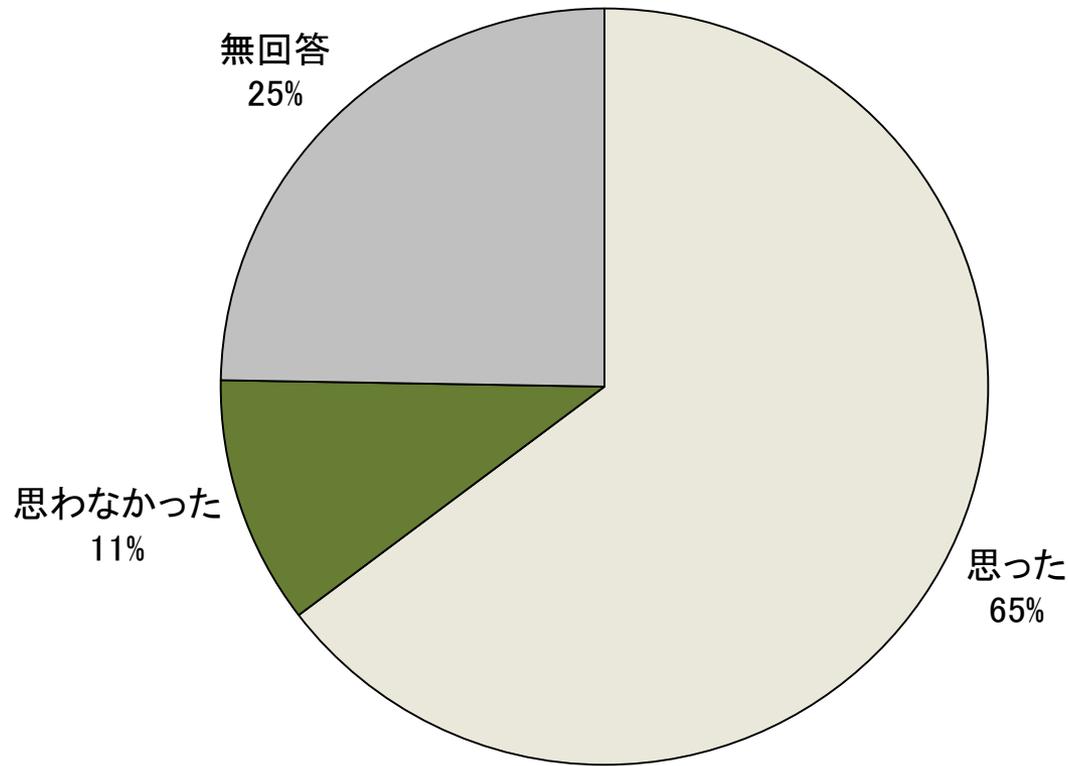
- 実際に講演会を実施した「休日午後」が最も多かった(42%)。
- 次いで「平日午後」が34%だった。



参加者アンケート(6)ー全体

医療や介護が必要になっても自宅で過ごしたいと思いませんか？

- 65%の参加者が「自宅で過ごしたい」と回答した。
- 「無回答」については、「現段階では判断できない」「検討中である」等の意見が見られた。



n=368

参加者アンケート(6)一欄外のコメント(一部抜粋)

医療や介護が必要になっても自宅で過ごしたいと思いますか？

【「思った」と回答した方の欄外コメント】

- ・ 義母を自宅で過ごさせてやりたいと思った。(光が丘)
- ・ 良い看護師さんにめぐり会えたら幸せだと思う。(光が丘)
- ・ 思ったが無理かなとも思う。(練馬)
- ・ 思ったが、治療費の事が気になる(石神井)
- ・ 在宅医の先生の人員次第かと思う(石神井)
- ・ 住宅事情によると思う(大泉)

【「思わなかった」と回答した方の欄外コメント】

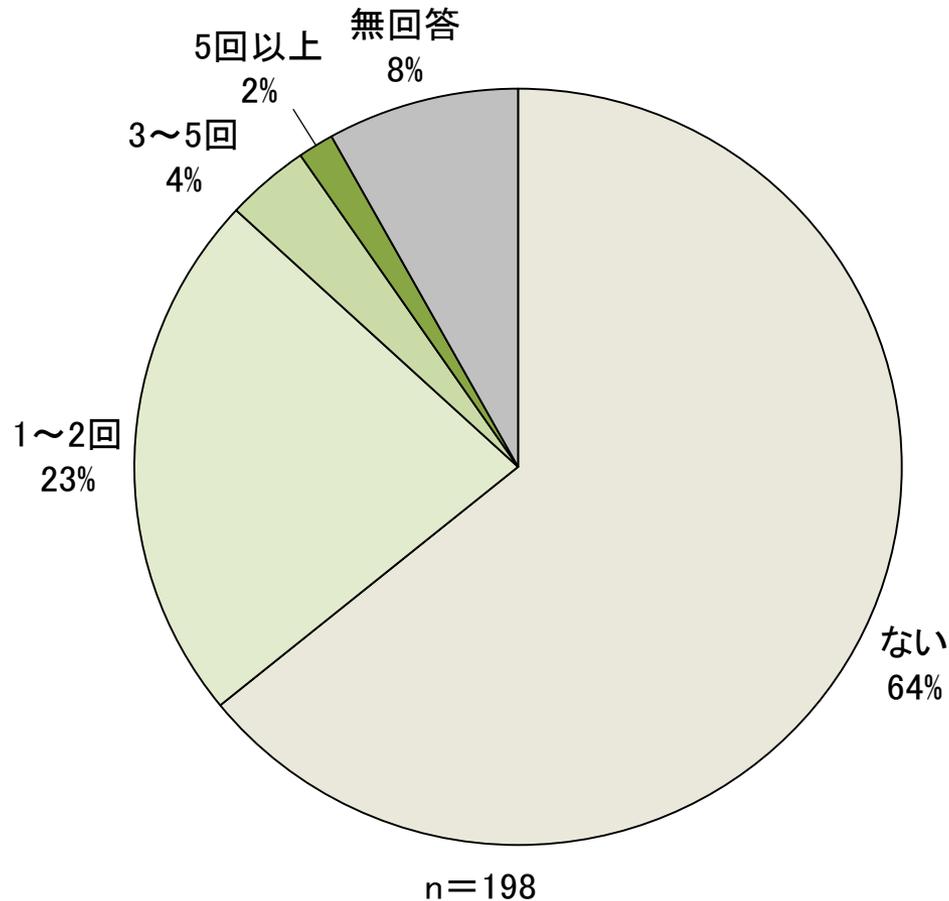
- ・ 以前から決めているので。(石神井)
- ・ 一人暮らしで無理だと思うから。(光が丘)
- ・ 家族に負担をかけたくない。(光が丘)
- ・ 今後に期待したい。(練馬)
- ・ 状況・疾病によると思う(大泉2件)

【無回答の方の欄外コメント】

- ・ どちらとも現段階では判断できない(全地区計6件)
- ・ がんの場合、自宅に戻す傾向で、自宅で過ごさざるを得ないのが現状。訪問看護の方が親切で有難かった。(光が丘)
- ・ 考え中である(全地区計6件)
- ・ わからない(練馬・石神井)
- ・ 自分自身では自宅で最期を迎えたいと思うが、子供には病院や施設に入れてほしいと伝えると思う。(光が丘)
- ・ 独居なので分からない(石神井)

参加者アンケート(7)ー全体 在宅療養についての講演会等に参加したことはありますか？

- 64%の参加者が初めての参加だった。
 - 1～2回参加したことがある方は23%だった。
- ※第3回、第4回のみ本設問を実施。

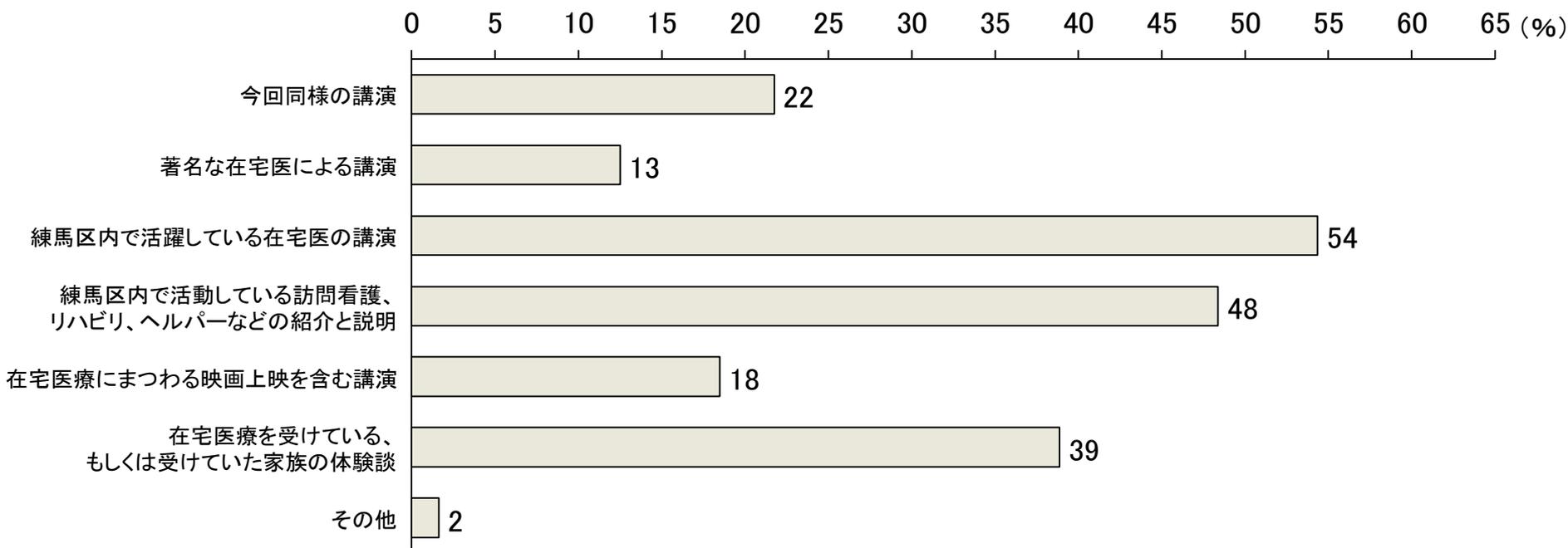


参加者アンケート(8)ー全体

今後はどのような講演会を希望しますか？

- 「練馬区内で活躍している在宅医の講演」が最も多く(54%)、次いで「練馬区内で活動している訪問看護、リハビリ、ヘルパーなどの紹介と説明」が48%、「在宅医療を受けている、もしくは受けていた家族の体験談」が39%だった。

※複数回答可



※複数回答

参加者アンケート(9)

自由回答(一部抜粋)

【肯定的なご意見】

- 在宅で療養するということが理解でき、在宅療養に関する不安が解消された(練馬・石神井)
- 事例紹介もあり、わかりやすく、有用な情報を得ることができた。(石神井)
- 地域包括支援センターの役割が理解できた。(全地区計7件)
- 親がこれから在宅医療を利用する予定であり、学ぶことができた。(光が丘)
- 練馬区で在宅療養を受けたいと思った。(光が丘)
- 家族や地域の方からの支援が必要ということがわかった。(光が丘)
- 困ったことがあつたらまず、地域包括支援センターに行って相談しようと思った。(大泉)
- どんな状態でも在宅で過ごすことができるということで、心強く思った。(大泉)
- 終末期のことを考え直してみたい。(大泉)
- ACPを知ることができてよかった。(大泉)

【要望】

- 今後もこのような講習を望む。(練馬・大泉)
- どこで講演会が開かれるかを知りたい。(練馬)
- 介護保険、医療保険、公費負担など利用方法をや算定例を教えてほしい。(石神井・大泉)
- 認知症など他の症例の事例について知りたい。(光が丘)
- 高齢の方も多いので休憩時間を増やしてほしい。(大泉)

【その他】

- 子供にこの講演の内容を話す予定。(光が丘)
- とても重い内容で考えがまとまらない。(光が丘)
- 理想は在宅だが、今の仕組みでは不安要素が多すぎる。(練馬)
- 在宅医療が必要になったら演者の医師に診てもらいたい。(光が丘)
- 経済的に在宅医療が実現できるか不安。(練馬)

次年度の方向性

平成30年度の実施結果

- 参加者の年齢層は、練馬地区、石神井地区、大泉地区では昨年と同様に、75歳以上の参加者が最も多かった。一方、光が丘地区では50歳代の参加者が多かった。
- 今年度は、地域包括支援センターの紹介のほか、各回のコーディネーターである医師を中心に、各講演の内容を決定した。講演タイトルを光が丘地区ではがん患者・家族をターゲットとしたところ50歳代の参加者が最も多くなった。
- 医療や介護が必要になっても自宅で過ごしたいと思うかの問いに対し、「無回答」25%と講演会を受けても検討中の方が多かった。
- 今後の講演会の希望としては、昨年に引き続き、「練馬区内で活躍している在宅医の講演」、「練馬区内で活動している訪問看護、リハビリ、ヘルパーなどの紹介と説明」、「在宅医療を受けている、もしくは受けていた家族の体験談」を希望する人が多かった。また自由記載にて、「認知症」や「独居」、「終末期の意思決定(ACP)」の事例紹介を望む意見も多く見られた。

次年度の方向性

- 参加者のニーズとして、地域で活躍する在宅医の講演や地域で活動する多職種の紹介・説明を望む意見が多く見られたことから、次年度も引き続き、「講演者の職種多様性」、および、「地域の医療資源等の情報提供」を重視した企画構成を行っていくことが必要である。
- また、家族の体験談を望む意見や認知症、独居、終末期における意思決定(ACP)といったテーマを望む意見が多く見られたことから、今年度同様に、「具体的な事例の紹介」を含めた講演内容を検討していく必要がある。
- 「家族に負担をかけたくない」「一人暮らしで無理だと思う」などの意見から、「家族向け」「独居の方向け」などターゲットを絞ることが必要である。